

口永良部島の噴火状況等について(第8報)

※ これは速報であり、数値等は今後も変わることがある。

※ 下線部は、前回からの変更箇所。

平成26年8月13日
21時00分現在
内閣府

1. 火山活動の状況(気象庁情報:8月13日16:00現在)

(1)これまでの状況

8月3日12時24分に、口永良部島(鹿児島県屋久島町)新岳付近で噴火が発生し、噴煙が火口縁上800m以上まで上がった。これを受け、気象庁は3日12時50分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベル1(平常)から3(入山規制)に引き上げた。(口永良部島で噴火警戒レベルを3に引き上げたのは平成20年(2008年)10月27日以来)

5日の上空からの観測では、この噴火に伴う火砕サージの痕跡を確認し、6日の上空からの観測では、新岳火口に新たな割れ目火口を確認した(8日に開催した火山噴火予知連絡会拡大幹事会では、3日の噴火による火砕サージの痕は、低温の火砕流によるものと解釈した(なお、火砕サージも火砕流の一種である))。

3日12時24分に発生した噴火は、火山灰の分析の結果、マグマが直接関与していた可能性があることが分かった。今後、マグマが関与した噴火が発生した場合、火砕流が発生する可能性がある。このため、気象庁は7日10:00に火口周辺警報の切り替えを発表した。

遠望カメラでの観測では、12日に火口縁上300m、13日には火口縁上600mまで白色の噴煙が上がった。

火山ガス観測の観測では、13日の二酸化硫黄の平均放出量は、1日あたり300トン(前回5月21日60トン)であった。

火山性地震は4日以降、3日と比べ少ない状態で経過している。13日朝には継続時間の短い火山性微動を1回観測し、微動に伴いごくわずかな傾斜変動を確認したが、噴煙等に特段の変化は見られなかった。

(2)今後の見通し

火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒。

向江浜地区から新岳の南西にかけて、火口から海岸までの範囲では火砕流に警戒。

風下側では降灰および風の影響を受ける小さな噴石に注意。

降雨時には土石流の可能性があるので注意。

2. 人的・住家被害の状況(消防庁調べ:8月11日17:10現在)

- (1)人的被害
被害情報なし
- (2)住家被害
被害情報なし

3. 避難の状況等(消防庁調べ:8月11日17:10現在)

- (1)避難指示・勧告等
屋久島町が避難準備情報発令【77世帯135名】(8月3日13:00)
- (2)避難状況
 - 島内残留者:92名(うち3名は島内自主避難)
 - 島外自主避難:14名

4. 政府の主な対応

(1) 関係省庁災害警戒会議等の開催

- ・古屋内閣府特命担当大臣(防災)、松本内閣府大臣政務官出席のもと、関係省庁災害警戒会議を開催し、今後の活動の見通し及び各省庁の対応状況について情報共有を行った(8月4日10:30)。

(2) 各府省庁の対応

① 内閣府の対応

- ・情報連絡室を設置(8月3日 12:50)

② 国土交通省の対応

- ・九州地方整備局防災ヘリによる上空からの調査を実施(8月6日)
- ・九州地方整備局防災ヘリによる上空からの調査及び地上調査を実施(8月13日)

③ 気象庁の対応

- ・火口周辺警報を発表。噴火警戒レベルを1(平常)から3(入山規制)に引き上げ。(8月3日 12:50)
- ・火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)を切替。(8月7日 10:00)
- ・火山の状況に関する解説情報を発表(第1号～第11号)
(8月3日 14:30、8月3日 20:00、8月4日 16:00、8月5日 16:00、8月6日 16:00、8月7日 16:00、8月8日 14:40、8月8日 16:00、8月11日 16:00、8月12日 16:05、8月13日 16:00)
- ・機動調査班が上空から調査を実施。(8月5日、6日)
- ・火山噴火予知連絡会拡大幹事会の開催。(8月8日)
- ・機動調査班が現地調査を実施。(8月11日～14日(予定))

④ 文部科学省の対応

- ・鹿児島県教育委員会に対し、防災態勢の強化を図るとともに、児童生徒等の安全確保及び施設の安全確保等に万全を期すよう要請(8月4日、7日)

(3) 関係地方自治体の対応

① 鹿児島県の対応

- ・災害警戒本部を設置(8月3日 13:30)

② 屋久島町の対応

- ・災害対策本部を設置(8月3日 13:00)